

生涯的縦断研究における研究者・協力者関係の質的分析

その5：旧研究スタッフにとってのHRL体験の意味

○藤崎真知代¹・杉本真理子²・石井富美子³

(¹明治学院大学心理学部・²帝京大学文学部・³立正大学社会福祉学部)

【目的】親子関係などの発達研究の手法として多様な縦断研究が実施されてきてはいるが、研究者・協力者関係について正面から取り上げたものは少ない。本研究は、古澤を中心として我々が40年余り継続してきている2つの母子関係形成過程に関する縦断研究を通して、その問題を明らかにしようとするものである。2007年以降の研究の流れ、及び研究者・協力者による発行物は図1に示す通りである。本報告では、中里キャンプを中心とした Human Relationships Laboratory（人間関係体験の場：以後HRLと記す）の発足当時は参加したが、その後、様々な事情で活動を離れた旧スタッフが50歳代～60歳代になった時点でHRLを振り返っての語りからHRL体験の意味を探り、現在も継続して参加しているスタッフの語りの内容（本研究—その3(2011)）と比較検討することが目的である。

	2007	2011	2012
シニア・ジュニア合同	2007『「続見えないアルバム」刊行のための寄稿集』発行		
スタッフ	2011.3『40年にわたる生涯的縦断研究(HRL:中里キャンプ)を振り返って—研究者・スタッフにとっての体験の意味』発行		
	2012.3『40年にわたる生涯的縦断研究(HRL:中里キャンプ)を振り返って—研究者・スタッフにとっての体験の意味Ⅱ』発行		
子 親 スタッフ	2011.9 シニア・ジュニアの親世代・子ども世代・スタッフ合同ミーティング		
	2012.2 シニア・ジュニアの子ども世代とスタッフの合同ミーティング		
	2012.8 シニア子ども世代・スタッフとの旧中里村訪問		
	2012.9 シニア・ジュニアの子ども世代とスタッフの合同ミーティング		
	2012.11 シニア・ジュニアの子ども世代とスタッフの合同ミーティング		

図1 2007年以降の活動の流れと発行物

【方法】対象：1970年代のシニアグループの創設当時は研究スタッフとして参加していたが、その後、長らくHRLの活動からは離れている旧スタッフ3名（いずれも臨床家）。手続き：旧スタッフ1名は2009年6月、その他2名については2011年3月に、それぞれの居住地の近く等で、2名の現研究スタッフがインタビューを行った。そこでは面接の趣旨を説明した上で、各自のHRLにおける体験を当時から現在に至るまで、どのように捉え意味づけているか、一人約1～1.5時間ほど語ってもらった。2名については了解を得て語りを録音し、後日、逐語記録として文字化した。他の1名については、インタビューを行った現研究スタッフが語りの内容を詳細に記録した。これらの記録、および2007年に発行した『「続見えないアルバム」刊行のための寄稿集』を参考に、旧スタッフそれぞれにとってのHRLにおける体験の意味に関する語りを事例分析し、現スタッフの語りとの共通性を検討した。

【結果及び考察】1)各事例の語りの内容：事例1：①HRLを辞めたのではなく行けなくなったこと、②HRLの夢をみるが母親として自己嫌悪した夜に見たこと、③物理的に活動から離れても臨床家としての基本姿勢をHRLから学んだこと、等が語られた。事例2：①子どもとの関係の中で子どもや自分の深部を見続けた体験であったこと、②子どもの内側から生じてくるものを先入観なくありのままに理解すること、③「大人の心的展開なくして子どもの成長はない」という視点を、臨床に携わる人々と共有していくことに意味を感じ続けていること、など、HRLを通して根底から育まれたものを支柱に据えた歩みであることが語られた。事例3：①自然と対峙し行動していく子どもの真剣な自己決定力、②子どもが表現したものを受け止め、子どもの成長する力を信じ、長期的にフォローしていく姿勢、③子どもとのエピソードを通して自身の捉え・行動・感情をとことん内省し考える場であったこと、④臨床家として直面する困難に対してHRL経験は根本的な支えとなっていること、⑤HRLの夢を見てはその意味を色々考えること、等が語られた。2)現・旧スタッフの語りの共通性：HRL体験の意味は、各自の人生の全体性のなかで意味づけられ再構成された独自の言葉による語りとして表現され、その点は現スタッフとも共通していた。それは子ども世代協力者にとっても、研究スタッフにとっても「自分らしくある」ことを徹底して問い直す場であったことにあるといえよう。（本研究は2009～2011年度科学研究費（課題番号21530699）、および一部は2012年度明治安田こころの健康財団による研究助成を受けた。）